

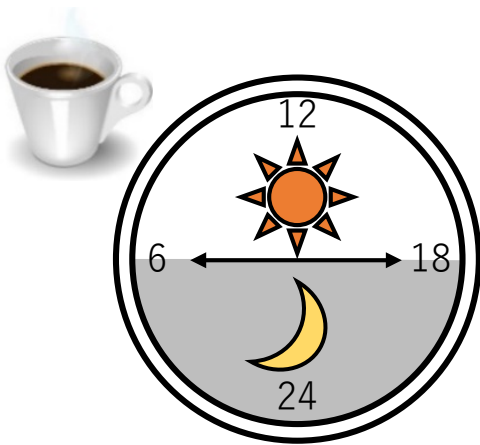
時間軸から見える健康

－体内時計や加齢と共に変化する指標を解析－

成果の特徴

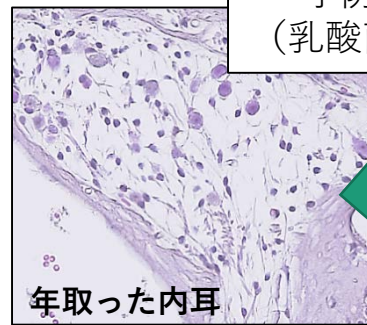
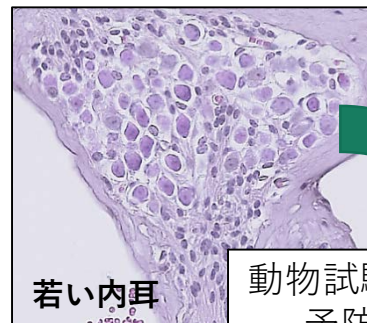
- 体内時計に作用する食品成分を探索・解析できます（動物個体、ヒト培養細胞）。
- 加齢性難聴や騒音性難聴を予防する食品成分を探索・解析できます（動物個体）。

時間栄養学



- ✓ 特定の食品成分が体内時計に作用することを証明
- ✓ 日々のパフォーマンスを最大化するための食生活とは

加齢性難聴



動物試験で食品による
予防効果を証明
(乳酸菌H61株など)

神経細胞が減少して聴力が低下

成果の活用

本研究成果は、毎日の生理リズムを最適化し、体調を整えるための食品・食生活への応用が期待されます。また、難聴を始めとする加齢性疾患を予防するための食品開発への応用が期待されます。

Oike (2017) Modulation of circadian clocks by nutrients and food factors. Biosci Biotechnol Biochem. 81(5): 863-870.

Oike et al., (2016) Dietary intake of heat-killed Lactococcus lactis H61 delays age-related hearing loss in C57BL/6J mice. Sci Rep: 23556.

概日リズム調節剤（特許出願中：特願2017-170345）※民間企業との共同研究